

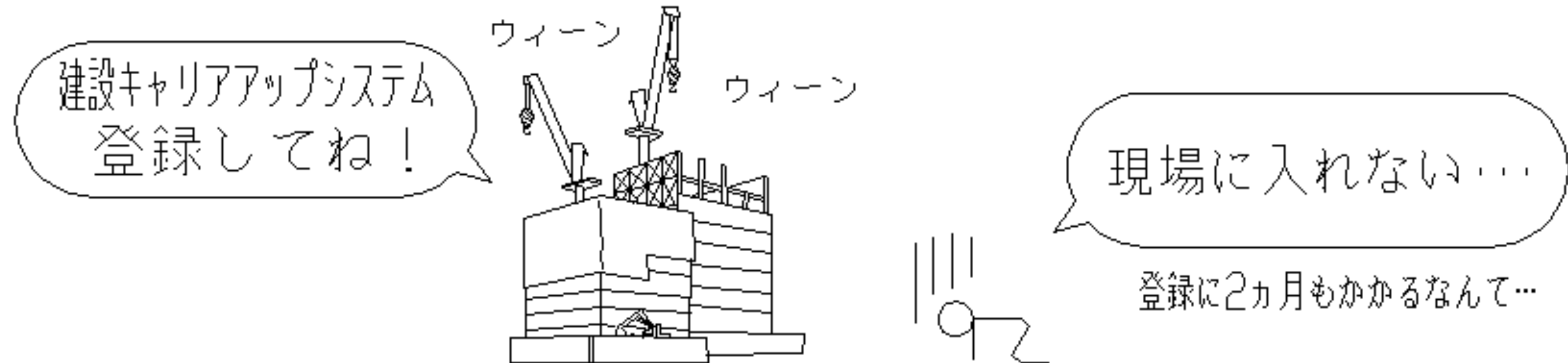
# 最短で攻略する 建設キャリアアップシステム

経営管理の辻元法務事務所

2022.5.4 辻元誠和

# いきなり総括！

- 建設キャリアアップシステムは、職人や作業員の収入を上げる制度です。
- 大規模な現場では、建設キャリアアップシステムに登録していない職人や作業員は入場できなくなります。
- 公共工事への全面適用は時間の問題とされています。
- 次頁の立派な理想に反して、①社会保険徴収システムとか、②一人親方撲滅システムと揶揄されています。



# 建設キャリアアップシステムとは？

- 資格、社会保険加入状況、現場の就業履歴などを登録・蓄積し、技能者の適正な評価や建設事業者の業務負担軽減に役立てるための仕組みで、建設業で優秀な人材を確保するために見える化するものです。
- 現在、約25%が65歳以上となっており、30歳未満は約10%で、半分くらいは3年以内に退職してしまうのが現状で、人材確保が大きな課題となっています。
- 建設キャリアアップシステムを導入することで、個人一人一人の技能や経験を業界全体の共通ルールで蓄積・確認できるようになります。
- 個人の能力（レベル1～4）に応じて建設キャリアアップカード（ICカード）が発行されるので、技能に合った処遇がこれから期待できるそうです。

# 不明確な一人親方のキャリアパス

- 技能者のキャリアパス（技能レベルや国家資格など）は、会社に所属する職人や作業員ならば、役職や主任技術者、現場代理人などの経歴である程度把握できますし、もしも転職の場面でも賃金交渉できるでしょう。
- しかし一人親方の場合は、あくまで外部の人間なので、その人がどんな現場をやってきたのか、どんな技術があるのか、キャリアパスが不明確で、報酬交渉など難しい（買い叩かれる）と考えられています。

# やはりキモは一人親方？

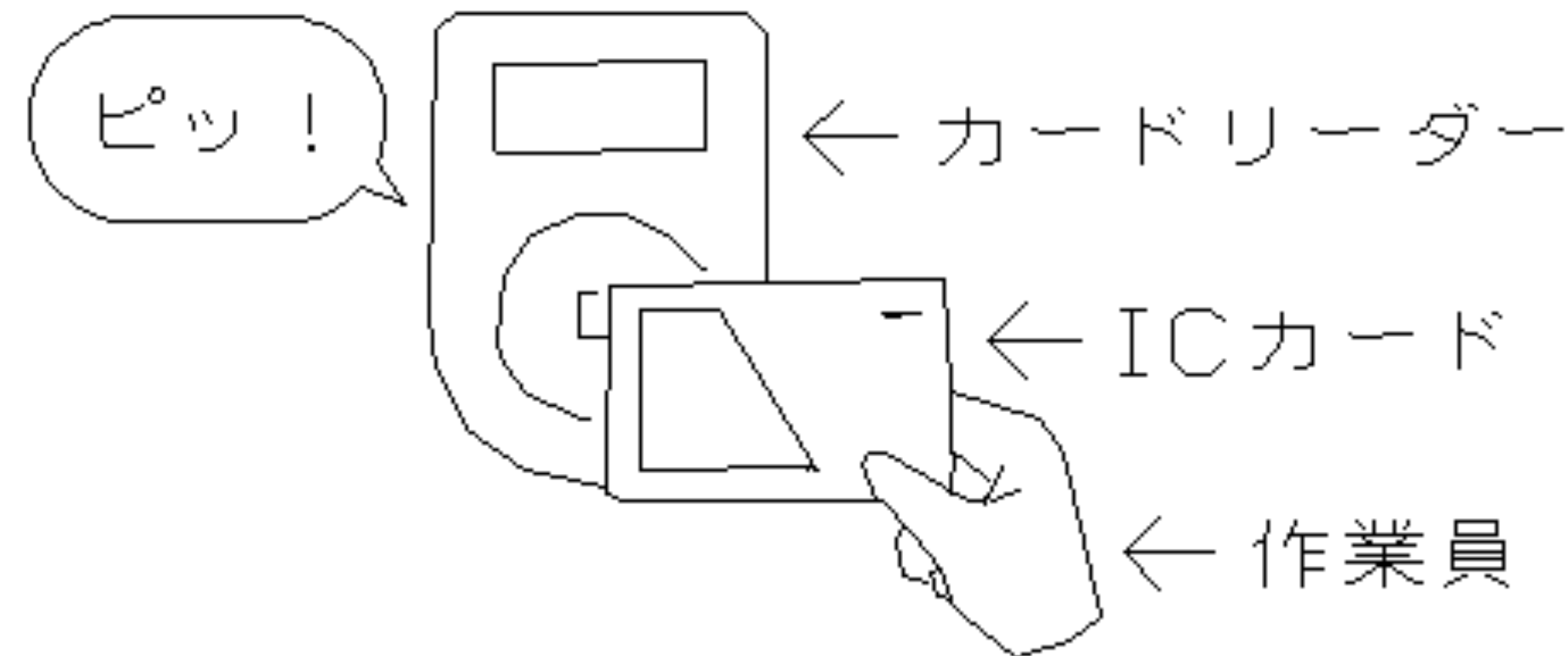
- 建設キャリアアップシステムの目的は、職人や作業員の処遇改善（技能に見合った賃金）なので、会社員であれば国レベルの労働法令や会社レベルの技能向上や離職回避施策で守られますが、どこにも所属しない一人親方は今まで誰も守ってくれませんでした。
- ゼネコンと契約する一人親方についても、国は総括すると、社会保険料確保のためなのか「30歳未満の一人親方は認めないので雇用関係になりなさい」という方針を表明しています。
- 一人親方との付き合い方については、消費税のインボイスとも関連して、建設業の重要な局面を向かえていますね。

# この資料の目線（ここから本題）

- この資料は、下請業者の目線で書いています。
- 下請業者が建設キャリアアップシステムが整備された現場に入場するために、自らの従業員に技能者カードを取らせたり、自らが発注する一人親方に技能者カードの取得をお願いする場面を想定しています。

# 登録するとどうなるか？

- 建設キャリアアップシステムに登録すると、一人一人にICカードが発行されます。
- 転職しても、ICカードは自分の物なので会社に返さなくてもよいです。
- 現場に入場するときに、カードリーダーにICカードを合せて「ピッ」とさせます。
- これで現場経歴がドントン溜まっていくのです。



- ICカードを詳細型にバージョンアップすると、国家資格や研修受講の情報を追加で登録でき、当局に申請することによって、カードのレベルを上げることができます。

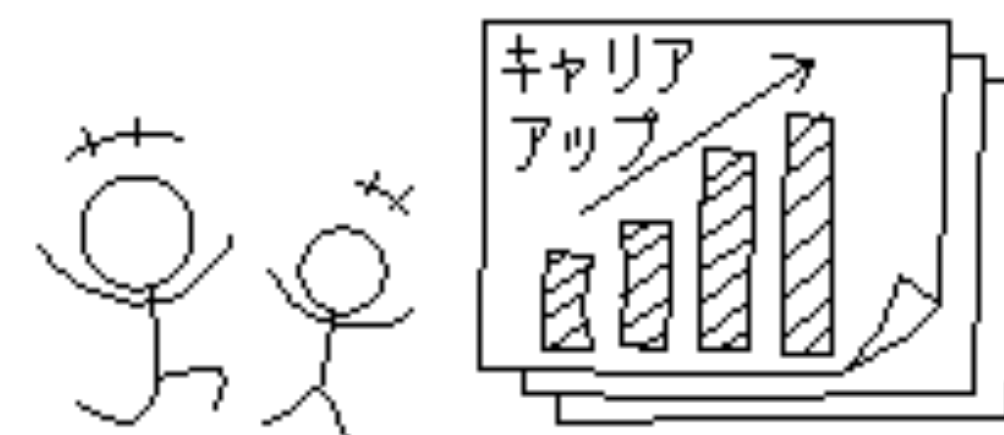
レベル1：見習い ※初回登録は全員このカード

レベル2：一人前（実務経験3年）

レベル3：職長クラス（実務経験7年）※技能士検定の2級

レベル4：管理職クラス（実務経験10年）※技能士検定の1級

なるほど  
わかりやすいね！



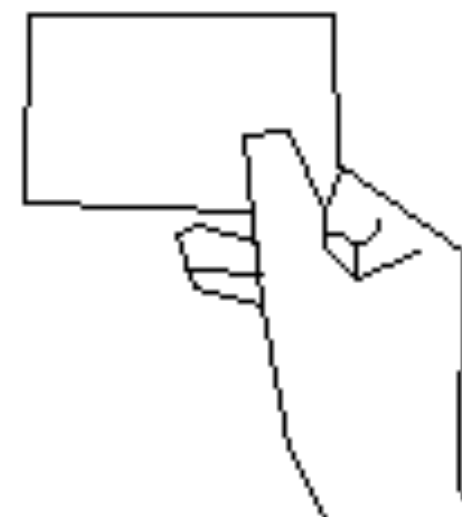
- それぞれカードの色が変わっていきます。（レベル4はゴールドカード）
- 業種とレベルに対応した賃金目安も作られていますが、これはどうなるか分かりません。



# 導入するメリット（技能者個人）

- 自分の実力を客観的に確認できます。
- 自分の資格や就業履歴を確認できます。
- 現場が変わっても適正な評価を受けられます。
- 自分のスキルが見える化されていてモチベーションアップにつながります。
- ICカードのレベルが上がると親会社に対してプレゼンしやすくなります。

私はレベル2



私はレベル4



# 導入するメリット（建設会社）

- 個人の就業状況を簡単に確認できます。
- 現場の入退場管理を効率化できます。
- 個人の能力レベルが確認しやすいので良い職人がいる会社は仕事を受注しやすくなります。
- 下請や専門工事会社のレベルを把握しやすくなります。
- 作業員名簿や施工体制台帳の作成が自動化されるようです。
- 社会保険加入状況の確認の効率化になります。
- 国家資格等の確認の効率化になります。

# 導入するデメリット

- とにかく登録や変更が面倒で大変な労力です。
- 新たな金銭負担が発生します。
- 毎年の更新料を払い忘れると登録取り消しのおそれがあります。
- 管理をアウトソーシングすれば、行政書士や社会保険労務士の顧問料が値上げとなるでしょう。

# 導入しないことへのデメリット

- 今後入場できない現場が出てくる可能性があるでしょう。
- 登録が遅くなればなるほど就業履歴の蓄積が遅れます。
- 事業者登録で1カ月、技能者登録で1カ月と、結局2カ月かかるので、この現場に必要なと導入を決めても間に合わないでしょう。
- 大手ゼネコンの現場では、どんどん建設キャリアアップシステムの導入が進んでいるので、早目の登録が懸命でしょう。

# 事業所の登録

- 事業所の登録料とIDの管理料の2つが掛かります。

- 登録料（5年ごと）

資本金500万円未満=6,000円（一人親方は無料）

資本金500万円以上1000万円未満=12,000円

- 管理料（1年ごと）

11,400円／登録の翌月上旬

# 技能者の登録

- 技能者の登録は、本来個人で行うものですが、会社に委任して登録してもらいます。
- 技能者の登録は簡略型と詳細型に区分されます。
- 簡略型=2,500円（本人情報+建退共）
- 詳細型=4,900円（上記+国家資格+健康診断+特別加入）
- 現場の入退場履歴や就労履歴などは簡略型でOKのようです。
- 簡略型から詳細型への変更は差額2,400円でOKのようです。
- 詳細型から簡略型への変更はできないようです。

# 簡略型と詳細型の使い分け

- 会社の役員は労災特別加入が詳細型しか入らないので詳細型がよいでしょう。
- 会社の従業員について、元請からの要請（入退場・就業履歴登録）に最少限で応えるのであれば簡略型でよいでしょう。
- 会社の従業員について、高いレベルの職人数をアピールして受注拡大や客単価向上を狙うなら、国家資格等の情報が入る詳細型がよいでしょう。
- もっとも、簡略型までは企業努力として、詳細型へのバージョンアップや追記登録は従業員個人に任せるとしても、問題ないかと思います。
- 詳細型は技能レベルが一目で分かり、最上級のレベル4は通称ゴールドカードと呼ばれているらしいです。

# 自社が元請となったら？

- これまでは、自社が下請としてのICカードの必要性を説明してきましたが、公共工事の元請を受注して、それが建設キャリアアップシステムの指定があれば、現場事務所にカードリーダーを備え付けなければなりません。
- 一般には、①カードリーダーと②ネット環境と③専用ソフト「建レコ」をインストールしたパソコンの3つが必要ですが、スマホやタブレットでも代用できるかもしれません。
- カードリーダーはamazonで税抜き10,000～30,000円(最頻値30,000)といったところでした。

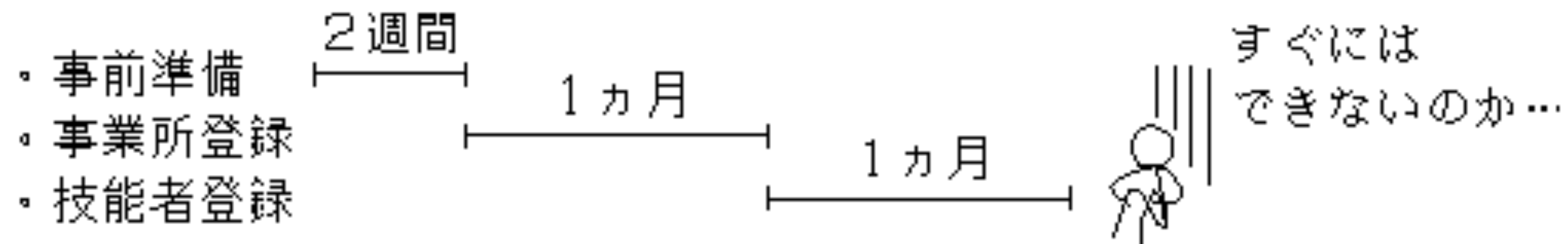


# 一人親方の認定とは？

- 国土交通省では、偽装一人親方（社会保険料逃れ）の撲滅のため、この建設キャリアアップシステムの制度と関連付けようとしているようです。
- 実務経験10年以上で技能者カードのレベル3以上で一人親方と認定するようです。
- 閉め出すべきは偽装一人親方であって、本当の一人親方まで入場を制限する元請業者が現れるのではないかと心配されています。
- やはりどうしても自由に生きたいとか、リスクを取ってもお金を稼ぎたいという理由で一人親方となる働き方もあるべきでしょう。
- 大手の仕事をやめて町場の仕事に移ろうとする一人親方の声も多く、ゼネコンは職人不足で頭を悩ましているそうです。

# まとめ

- 今日現在、普及率もかなり低いので、この先どうなるか分かりませんが、自社の仕事周りでICカードがないと現場に入らしてもらえない発注者があるか見渡してみて、その導入を検討してください。
- その際、導入着手からICカード発行まで2ヵ月にかかることを念頭にスケジュールを定めてください。



ありがとうございました😊